# 社会にフォーカス Vol. 2

## 「宇宙開発」と「東京オリンピック」

小惑星探査機「はやぶさ２」を搭載したＨ２Ａロケット２６号機が、2014年12月３日に鹿児島県の種子島宇宙センターから打ち上げられ、宇宙開発への新たな挑戦が始まりました。「はやぶさ２」に搭載された機器などは、会津大学や福島県内の民間企業の技術が深く関わっています。また、福島県教育委員会はJAXA宇宙教育センターと連携協定を結んでおり、「宇宙開発」のプロジェクトが身近に感じられます。さて、1957 年にソ連が世界初の人工衛星スプートニク１号を打ち上げて以来、米ソの宇宙開発競争が加速します。そのような中で1964 年に東京オリンピックが開催されました。実は、「宇宙開発」と「東京オリンピック」には深い関わりがあるのです。

### 〝世界初〟オリンピックの衛星生中継に成功！

ＮＨＫは、アメリカの人工衛星を利用して東京オリンピックの衛星生中継をめざしていました。1964 年 8 月に、アメリカで人工衛星「シンコム３号」が打ち上げられ、世界で初めての静止衛星として軌道に乗りました。ところが、これより先にシンコム１号は電気系統の故障で連絡がとだえ、２号は静止に失敗していました。実は、１号から３号がすべて地球の周りに静止すれば、地上波からの衛星中継が実現するはずでした。しかも、唯一の静止衛星シンコム３号は、電話通信用だったので、送信するデータの容量が少なく、映像通信は困難でした。しかし、ＮＨＫ技術スタッフが、中継装置を開発するなどしてこの問題を解決し、衛星中継の準備が整えられました。東京オリンピック開催の三日前のことでした。

「世界中の青空を全部東京に持ってきてしまったような、すばらしい秋日和でございます。」東京オリンピックの開会式は、北出アナウンサーの名台詞で始まりました。ＮＨＫは、オリンピックの様子を生放送で１日 10 時間ほど放送し続け、生中継は、世界 70 か国で放送されました。

さて、『小学校学習指導要領』第2節社会〔第6学年〕に、「オリンピック・パラリンピックの開催などを手掛かりに」とあり、小学校第6学年の教科書『新しい社会６　歴史編』（東京書籍）には、東京オリンピック・パラリンピックに関する次の記述があります。（下線は筆者）

・競技施設だけでなく、ホテルがいくつも建てられ、道路や下水道が整備されました。
・「日本の復興を世界に伝えることができて、世界からも認められました。」

東京オリンピックの衛星生中継により、世界の多くの人々が、女子バレーボール競技などにおける日本人選手の活躍や日本の復興ぶりを、テレビを通して目にしたのではないかと思います。そうした世界同時中継実現の背景には、「宇宙開発」と「日本人の優れた技術力」があったのです。